

2024年度 学校経営計画及び学校評価【ヴェリタス城星学園高等学校】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期方針・中期行動計画

1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。
 - ・ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念に基づいた教育を実践する。
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。
 - ・専門の先生方の助けを得ながらきめ細やかな生徒対応を行い、生徒の自己肯定感・自尊感情を向上させる。
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。
 - ・教職員の研修や自己研鑽を積極的に支援するとともに、教職員間の研究会・親睦会の機会を増やす。
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。
 - ・学園全体がオラトリオとなるよう尽力する
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。
 - ・「城星ファミリー」との関係を深め、教育活動面での具体的な協働の可能性を模索する。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

ア. 自己評価アンケート結果と分析	イ. 学校関係者評価委員会からの意見
<p><評価が相対的に高かった10項目></p> <ul style="list-style-type: none">○個人情報適切な取扱い○施設設備の行き届いた清掃○教職員の気持ち良い挨拶○学校行事の適正性○保護者の相談への適切な対応○緊急時の適切な情報伝達○「学びの森」の取組○建学の精神・教育理念への共感○礼儀マナーに関する指導○全体的な本校への満足 <p>(満足度77%以上)</p>	<p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会(保護者)・各学校種管理職・評議員(学識経験者)により構成されている。2024年度学校評価に関する検討は2025年4月17日(木)に行われた。</p> <p><意見まとめ></p> <ul style="list-style-type: none">・アンケート結果においては、学びの森に対する評価が向上しており、今後に向けた学園の方向性と一致していると感じられる。・今回は共学化が公表された後のアンケートであったが、本校を選んだ理由として「女子校」という選択肢の率が上がったところに留意が必要である。

ア. 自己評価アンケート結果と分析(続き)	イ. 学校関係者評価委員会からの意見(続き)
<p><評価が相対的に低かった5項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自主的な学習への取組 ○教育理念に基づく生徒指導の実践 ○クラブ活動と学業他とのバランス ○いじめ防止の取組 ○カウンセリング体制の整備 <p style="text-align: right;">(満足度58～65%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の保護者にとって変わってほしくない方向に本校が変わりつつあるということを謙虚に認識し、あり方や活動への理解を深めてもらえるよう努められたい。 ・学校評価アンケートの評点が前年度調査よりも下がっている点に留意が必要である。共学化により、女子校として入学した生徒と共学校として入学した生徒のいずれもが満足して卒業できるよう、十分な配慮が必要である。
<p><アンケート総括></p> <p>【満足度に関する結果】</p> <p>満足との回答が90%を超える項目は1項目のみとなっている。前年度には6項目が90%以上であったことと比べると、全体的に評価値は低くなっている。項目ごとの順位にもかなり変動があり、前年度は上位10項目に含まれていた教育理念の説明・教育内容の公開が外れ、大きく順位を下げています。ただし、前年度は上位10項目に入っていなかった行事の適正さ・学びの森の取り組みが本年度は上位となっており、特に学びの森の取り組みへの評価は大幅に上昇しています。</p> <p>下位10項目については、前年度においても相対的に評価が低かったものが多く含まれている。ただし、その中で学習状況の情報伝達・教育目標の説明・カウンセリング体制は評価の下落幅がやや大きくなっており、注意が必要である。</p> <p>【学校を選ぶ上で重視した点に関する結果】</p> <p>学校を選ぶ上で重視した点としては例年同様に「校風」が群を抜いて上位であるが、前年度は70%超がこの項目を選択されているのと比べると若干ながら率は下がっている。一方で「女子校」「教育方針」「生徒数」の選択割合は上昇している。学校を選ぶ上で重視した点の下位項目の傾向は前年度とほぼ同様である。「学費」という要素が低くなっている点が特徴的である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本学園は幼稚園から高等学校までを有するため、高学年が低学年を守るという観点での安全対策や避難訓練は重要だと感じる。生徒にもこれまで以上に緊張感を持って訓練に参加するよう促す必要がある。 ・教員評価で比較的高い評価となっている一方で保護者評価が低い項目の中に、教育理念や教育目標に関連するものが含まれているように見受けられる。教える側と教わる側でギャップが生まれているとすれば注意が必要だろう。 ・いま求められているのは「主体的・対話的で深い学び」であり、すでに他校ではその実現が図られている。本校でも授業の改善によって新たな時代にそぐう教育機関へと高めていってほしい。 ・校種間の交流については、教員に就業時間の制約があることからすれば後援会がサポートする形も想定し得る。例えば幼稚園のサマーフェスティバルに高校生を参画させる機会があればと願っている。 ・建学の精神を学ぶ研修への出席率が決して高くない状態である。研修の優先度を高め、参加を促していくことが求められる。 ・子どもたちも保護者も悩みを抱えやすい時代であるのだから、本校の強みの一つである「ドン・ボスコ子ども未来センター」の積極活用を図っていただきたい。 ・先日他私学で落雷事故が発生したこともあり、本学園でも常日頃から安全への配慮がより強く求められることを覚えておく必要があるだろう。

3 本年度の取組内容及び自己評価

※ 満足度は学校評価アンケートで「5:とても満足」「4:まあ満足」の回答割合を示している。

※ 「年度評価」の記載内容は学校評価アンケートの結果を分析したうえで、当該目標にかかる活動全般を評価したものである。満足度80%以上で○、同60%以上で△、それ未満で×の表記としている。

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	・ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念に基づいた教育を実践する。	ドン・ボスコとマリア・マザレロのように、生徒が主語となるような教育に前向きに取り組む。	生徒が主語となる教育活動	子どもは、自主的な学習に取り組んでいる。(満足度64.6%)	△学校行事やクラス活動において、自分たちで考え行動できるようになった。さらなる進展を図る必要がある。
		「謙遜で、強く、たくましい人になりなさい」との聖母マリアの勧めを具体的に実行する。	自分が貧しきものであることの認識	学校は、建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている。(満足度68.2%)	△さらなる自己理解を目指し、互いに学びあう姿勢を大切にする必要がある。
		全ての人を尊敬し、受け入れた聖フランシスコ・サレジオの柔和な心で生徒と関わる。	全ての人を受け入れる柔和な心	教職員は、社会人としての良識ある言動を実践している。(満足度76.6%)	△面談の機会をなるべく持つことで、生徒・保護者の理解に努めた。
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	・専門の先生方の助けを得ながらきめ細やかな生徒対応を行い、生徒の自己肯定感・自尊感情を向上させる。	教育相談事例などの記録をデータ化し、情報共有し、Assistenzaを実行する。	情報のデータ化とAssistenzaの実践	学校は、教育目標(アシステンツァ・ファッチョイオ)に沿った教育を行っている。(満足度72.7%)	△データ化した情報を用い、生徒理解に役立てた。
		学園DXを推進することで、業務内容の改善に努める。	DXの推進	教員は、子どものさまざまな状況に日々寄り添うよう努めている。(満足度72.3%)	△さまざまなツールを導入できた点はよかった。今後は業務内容の具体的な改善を行っていく。
		さまざまなジャンルの専門家による研修の企画および外部研修への参加を促す。	各教員が研修で学んだことを実践する	教員間での連携が図られている。(満足度74.4%)	△教員によって、学ぶことに対する意識にばらつきがあり、教育活動に活かせるようさらなる改善が必要である。

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	・教職員の研修や自己研鑽を積極的に支援するとともに、教職員間の研究会・親睦会の機会を増やす。	学校改革に向け、各教員が積極的な自己研鑽に努める。	学校改革・自己研鑽	学校は、子どもにとって将来につながる総合的な学習を行っている。(満足度71.7%)	△学校改革を推進していくうえで、課題がより明確になった。
		共学化した姉妹校や他のカトリック学校の先生から学ぶため、交流の場を持つ。	積極的な交流	-	○姉妹校訪問や行事、研修などを通して、積極的な交流の場を持てた。
		生徒に備わっている力を生徒自らが発揮できるよう、教員が愛と忍耐を持って見守る。	愛と忍耐による見守り	教員は、子どものさまざまな状況に日々寄り添うよう努めている。(満足度72.3%)	△日々の変化を大切にし、声をかけ、成長を見守っている途上である。
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	・学園全体がオラトリオとなるよう尽力する	共学化を成功させるため、教職員が希望を持って、各人の持っている豊かさを惜しみなく出し合う。	共学化の成功	教員間での連携が図られている。(満足度74.4%)	△イベントにおいて全教員で積極的に対応したが、まだ改善の余地はある。
		生徒が城星オラトリオでのボランティア活動ができるよう、整える。	ボランティア活動への積極的参加	子どもは、自主的な学習に取り組んでいる。(満足度64.6%)	△参加した生徒もいたが、全体的に参加への働きかけが不十分であった。
		新校舎建築に関心を持ち、必要な協力を惜しまない。	校種を超えた教師間の交流	-	○各委員会活動や研修会において、交流を図った。
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。	・「城星ファミリー」との関係を深め、教育活動面での具体的な協働の可能性を模索する。	後援会の協力に感謝し、教育活動面での具体的な協働の可能性を模索し、実行していく。	後援会との交流		△教職員は親睦会への参加、生徒は意見交換会など、後援会の方々の働きかけにより、交流が図れた。
		教会のイベントなどに生徒の積極的な参加を促す。	生徒の主体的活動	学校は、地域との連携を図っている。(満足度66.7%)	△インターナショナルデーやクリスマスイベントに参加し、活動できた。
		学園が持つ施設を、地域社会や教会に貸し出し、交流を深め、開かれた学園を目指す。	開かれた学園		△講演会の実施や体育館、グラウンドの貸し出しなどを通して、学園を地域に開くことができた。